



「トノサマガエル」



かつてはこのトノサマガエル、北九州市内でもヌマガエルやアマガエルと共に、平地の田んぼでも普通に見られたのだが、現在福岡県ではほぼ山間部にだけ生き残っているような状況となっている。トノサマガエルだけが20数年前頃に境に平地から急激にいなくなったのだ。



では何故トノサマガエルだけが減ってしまったのか。確かに宅地開発等でカエルが産卵できる田んぼのような湿地は減ってはいるし、大規模な圃場整備も行われている。しかしどうやら原因はそれだけではないようである。愛媛県で行われたある調査によると1990年代頃から稲の栽培品種の変化によって田植えの時期が遅くなり、更に田植えの後に行われる「中干し」と言われる一度田んぼに張った水を抜くまでの期間が短くなったことが大きな原因として挙げられている。トノサマガエルの産卵期は地域によって差があるがおよそ5月上旬から6月下旬。北九州市内ではもっと早く6月中旬には産卵期は終わっているように思う。ところが平地の田んぼでは6月中旬を過ぎてもまだ田んぼに水が張られていない所が増えている。更に卵から孵ったオタマジャクシがカエルになるまでがヌマガエルやアマガエルよりも長い期間を必要とする。つまりトノサマガエルが産卵したい時にまだ田んぼに水が無く、産卵したとしても中干しまでの期間が短いオタマジャクシが仔ガエルになり上陸する前に干からびて死滅してしまうのだ。

ヒトの農業へのちょっとした関わり方の変化がこれほどまでに生き物にとって大きな影響を与えてしまうとは正直驚きである。福岡県内ではまだこのカエルの減少原因を科学的に調査した例がないためはっきりした事は分からない。しかし誰もが目にしている田園風景は私たちの目には一見変わっていないように見えても、そこに暮らす生き物達にとっては大きく変わってしまったのかもしれない。

スタッフの飼育日誌

“真夜中の新人研修”

前号でも紹介した水環境館の新人スタッフ。彼のコメントにもあったとおり今年の5月下旬、「新人研修」の名のもとに夜間採集へと行って参りました。

「行きたかね〜」と子どものようにぐずる彼を「夕飯をおごるから」という甘い言葉で説き伏せ、小雨のばらつ中、一路紫川上流域の山間部へ。

そもそもなぜ夜間採集なのか?今回の目的は来春開催予定の爬虫類展で展示する「あのヘビ」を捕獲することだったからです。そのヘビは夜行性で昼間は地中に潜って暮らしている根暗な奴で、夜間のそれも雨が降る湿度の高い夜くらいでないと、なかなかお目にかかれないのです。しかし夜間の山中、どんな危険が待ち受けているかもしれません。新人研修とか言っていますが実は単に一人で行くのが怖かったから新人を連れて行ったのだらうというウワサもありますが...



「はい!その通りです!弁明の余地はございません!」

さて到着した現場は街灯もない林道で、その先には薄気味悪いトンネルの入口がぼっかり口を開けているという、あまりにナイスなロケーション。こんな場所絶対夜一人で来たくありません!懐中電灯の灯りだけを頼りに林道脇の斜面や側溝に溜まった落葉を掃いたり倒木をめぐったりして探していきます。時々細長い光沢のあるヘビのような生き物が出て来てその度に「でたー!あのヘビか?!」とイイ歳した大人二人が興奮気味に叫んでみたりしますが、よ〜く見ると大きなシーボルトミミズだったり、コウガイビル仲間だったりヌカ喜びの連続。深夜12時頃まで探してみましたが次第に北風が強くなり気温が急降下。ヘビ探しにはあいにくの気象条件となったため林道を引き返す事に。ところが道中あれこれ二人でだべりながら歩いてると、ふと足元にひょろ長い木の枝のようなものが落ちていたのに気づき、立ち止まってよく見るとヘビがいるじゃないですか!!(危うく思いっきり踏むところでした)

「遂に見つけたか!?あのヘビを!」と何の躊躇もなく素手で掴んだそのヘビは小顔がとっても素敵なおジムグリさんでした。このヘビは暑さが苦手、涼しくないと活動しないためか、あまり人目につかないため、見つけると結構嬉しいのです。いや〜ジムグリに出会えるなんて本当にラッキーな一日でした。えっ本来の目的だった「あのヘビ」はどうしたのかって。まあ今回は結局見つかりませんでした。その正体は来春の企画展で明らかになります。そして新人君!近いうちに夜の研修、第二回目をこなす予定なのでその時もまたヨロシクネ!



夏休み特別企画 チャレンジ!飼育スタッフ開催



今年の夏休みはいつもと違う夏休みにしたい!という飼育スタッフの希望により何と普段は一般のお客様は体験できない飼育スタッフならではの体験型イベントを実施しました。

その名も「チャレンジ!飼育スタッフ」。

一般のお客様にとっては眺めるだけの飼育展示の仕事を皆様にも実際に体験していただき日頃のスタッフの苦労や喜びを共有することで、夏休みの思い出作りにまた水環境館の生き物たちの展示に更なる愛着を感じていただくことを目的に開催したこのイベント。大人気の生き物への餌やり体験や触れ合い体験はもちろん、展示する生物の採集から大型水槽の掃除まで様々な体験メニューをご用意致しました。水環境館の生き物展示のその舞台裏をほんの少しですが体験できた参加者のみなさんにとって、館への更なる愛着と飼育展示の仕事を通じて身近な生き物たちへの興味関心を一層かきたてることのできたようです。今回のイベントの内容は中面で詳しく紹介しています。是非そちらもご覧下さい。